

# 日本信仰の源流とキリスト教

## —受容と展開、そして教育—

会期 / 西南学院大学会場 2013(平成25)年11月1日(金)～12月21日(土)  
國學院大學会場 2014(平成26)年 1月7日(火)～ 2月28日(金)

主催 / 西南学院大学博物館 國學院大學博物館  
後援 / 福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団・南島原市・南島原市教育委員会

### 開催概要

自然崇拜、そして八百万の神々に祈りを捧げる神道は、まさに古代日本人の祈りの原点です。他方、大陸から仏教が伝えられると、多くの日本人に受け入れられ、時の権力者も帰依して大規模な寺院が造られました。また、日本の神道と仏教を混淆する神仏習合という概念も芽生えて、これにまつわる神社仏閣も各地に生まれていきました。

1549年、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸します。キリスト教の東方伝播の波がまさに日本に訪れた瞬間です。九州各地、そして山口、京都へ向かったザビエルは、各地に足跡を残し、ザビエルが日本を離れたあとも宣教師らによって布教活動は続けられ、南蛮文化の萌芽とともに、多くのキリシタンが誕生します。しかし、こうした時代も長く続かず、日本の国是である禁教は、以降、断行されていきました。

日本は海外列強を前に開国を迎え、明治新政府が樹立すると宗教教育も盛んになります。近代国家の訪れは、教育の質的向上のなかで高等教育機関を誕生させ、西南学院大学はキリスト教、國學院大學は神道を建学の理念とする大学が創られました。両大学が近代から現代にかけてどのような歴史的かつ教育的変遷を遂げてきたのか。戦時下における学校教育の現状も踏まえて紹介していきます。



西南学院大学博物館



國學院大學博物館



### ◇展示構成

## I 日本宗教の特質

四方を海に囲まれた日本列島は、広大な海を通じて世界と繋がることで、多様な宗教文化を我がものに取り込んでいきました。

弥生時代の終わりから古墳時代にかけて、列島単位の国家形成が進む中で生み出された「神道」の根底には、靈魂の存在や、神のはたらきに対する畏れといった、人間の素朴な感情がありました。しかし、そこに神々へ捧げられた鏡や鉄製品が伝来し、また、仏教の訪れによって、教義・経典を持たない神祇信仰も次第に理論化され、神仏に対する崇敬が混然一体となった日本宗教の枠組みが形成されました。

## III 近代国家と宗教政策

禁教下にあった日本が、解禁となったのは1873年のキリシタン高札の撤廃です。その後、外国人宣教師らが日本を訪れ、布教が展開されました。また、教育機関の充実も図られたとともに、宗教教育も行われました。宗教を母体とする教育機関の創設があったものの、当時の社会状況などによって、宗教教育・学生教育が左右されることもあったのです。

## II キリスト教の東方伝来

西洋諸国の植民地政策もあって急速に広まっていったキリスト教は、フィリピンなど非西欧に伝わります。日本にキリスト教を伝えたのはインドから訪れたフランシスコ・ザビエルで、日本各地に多くのキリシタンを誕生させました。しかし、厳しいキリシタン弾圧は、多くの日本人キリシタンの命を奪ったとともに、貿易を許されたオランダ人・中国人をも制限するものでした。まさに近世における日本キリスト教史はわずかな輝かしい「光」の一方で長くつらい「影」の時代が続いたのです。

### 行事予定

2013(平成25)年～2014(平成26)年

#### 【特別展／企画展】

11月1日(金)～12月21日(土)  
大学博物館共同企画  
日本信仰の源流とキリスト教  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月23日(月)～2014年5月30日(金)  
古写真でみる西南学院Ⅲ  
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

2014年1月7日(火)～2014年2月28日(金)  
大学博物館共同企画part2・学内GP成果展  
日本信仰の源流とキリスト教  
[場所] 國學院大學博物館

#### 【講演会】

12月7日(土)14:00～16:00  
特別展開連公開講演会  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂  
[講師] 安高啓明氏(本学博物館学芸員)  
「日本宗教の源流とキリスト教」  
[講師] 深澤太郎氏(國學院大學助教)  
「神道の成立と外来文化」

2014年1月24日(金)15:30～16:30  
ミュージアム・トーク  
[場所] 國學院大學博物館  
[講師] 安高啓明氏(西南学院大学博物館学芸員)

2014年1月25日(土)13:30～15:00  
特別展開連公開講演会  
[場所] 國學院大學渋谷キャンパス 常磐松ホール  
[講師] 安高啓明氏(西南学院大学博物館学芸員)  
「日本宗教史のなかのキリスト教—伝来から近代教育まで—」

#### 【せいなんこどもワークショップ2013】

2014年3月8日(土)10:00～12:00  
「イースターエッグをさがせ」  
[集合場所] 西南学院大学博物館2階講堂

#### 【その他】

2014年1月10日(金)13:00～14:30  
高倉洋彰教授最終講義  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。  
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

## 西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内  
開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]  
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]  
入館料 / 無料

### 来館者掲示板

建物の雰囲気がいいです。常設展も充実していると思います。ありがとうございました。  
(2013/11/4 女性 20代)

日頃緑の薄い神道系の國學院大學博物館の所蔵品を見ることが出来た。特に僧形八幡神図は興味深かった。  
(2013/11/6 男性 80代)

毎回特別展が楽しみです。これからも今の様な感じでお願い致します。  
(2013/11/12 男性 40代)

神道の資料を始めて見た。  
(2013/11/14 男性 60代)

キリストの歴史、隠れキリシタン弾圧の踏絵台帳など、又魔鏡など必見の資料に感激しました。  
(2013/11/18 女性 60代)

11月も終わり、寒さが一層厳しくなる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
今回の来館者掲示板は、12月21日(土)迄開催中の「日本信仰の源流とキリスト教—受容と展開、そして教育—」よりアンケートで頂いたコメントをご紹介します。西南学院大学博物館で神道の資料を展示していたため、驚かされている方もいらっしゃるようです。  
13年度秋季特別展は日本がキリスト教受容していく中で、土着の信仰といかに出会い、展開して来たかを示すものです。西南学院大学はキリスト教のミッションスクールですので、本展のテーマは大変意味深いものであるかと思えます。

博物館スタッフ C・D

### アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車……約17分
- 博多駅 → 西新駅下車……約12分
- 天神 → 西新駅下車……約8分
- ※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスター → 修験館前……約35分
- 天神 → 修験館前……約20分
- ※修験館前・バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約15分

# News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 17 2013.12

◎西南学院大学



プチャーチン会談之図(「第五於御書院御返箱御渡之図」)[西南学院大学博物館所蔵]

## 特集 ついに開国へ、新時代の訪れ プチャーチン会談之図

ゾーリズ建築を求めて◎ 同志社大学(アーモスト館、啓明館)  
特別展紹介 日本信仰の源流とキリスト教—受容と展開、そして教育—  
所蔵品紹介 プチャーチン会談之図(「第五於御書院御返箱御渡之図」)  
大学博物館紹介◎ 蘇州大学博物館

SEINAN GAKUIN  
1920

## 同志社大学(アーモスト館、啓明館)

シリーズ第六回目となる今回ご紹介するのは、京都の名門・同志社大学の今出川キャンパスに建造されているアーモスト館および啓明館です。

アーモスト館および啓明館は、両館とも登録有形文化財に指定されています。アーモスト館は、同志社大学の前身となる同志社英学校の創設者・新島襄の学んだアーモスト大学にちなんで1932年に竣工され、現在は外国人研究者のための宿泊施設として利用されています。啓明館は第二図書館として1915年には書庫が、1920年には本館が竣工されました。

同志社には他にも、致遠館(ちえんかん)や新島遺品庫といったヴォーリス建築が現存し、ヴォーリスと同志社のゆかりの深さを今日まで伝えています。

またヴォーリスは、建築作品を手がけるのみならず同志社のカレッジソングまでも作詞しており、彼の同志社に対する熱い想いが伝わってくるようです。

博物館臨時職員 山尾彩香



アーモスト館



啓明館

(写真提供元 同志社大学)

### 【大学博物館紹介⑥】

## 蘇州大学博物館

蘇州大学博物館は2010年に蘇州大学本部に設置され、総建築面積はおよそ5637平方メートルになります。博物館は前方と後方に分けられ、前方は1929年に建てられた司馬徳体育館をそのまま活用しています。

博物館には蘇州大学の歴史に関する資料を主として、陶磁器、青銅器、碑や掛け軸などさまざまなものが展示されています。全館で1000点余の収蔵品を持っており、中でも代表的な資料として、紀元前の「越国編鐘」、民国時代の徐悲鴻の作品である「馬の絵」などがあります。また、博物館の中には企画展示室が設置されており、蘇州の地域性に関連した企画展が年に5回ほど開催されています。蘇州大学博物館の展示を通して、中国の近代教育と蘇州地域の文化を知ることができます。

博物館GP研究員 方圓



開館時間 / 8:30~17:00  
休館日 / 土日祝日、夏期休暇、冬期休暇  
連絡先 / 江蘇省蘇州市吳中區十梓街1号  
TEL 0512-65113831  
URL / http://museum.suda.edu.cn/sdbn.aspx

### 所蔵品紹介

## ついに開国へ、新時代の訪れ プチャーチン会談之図 (「第五於御書院御返箱御渡之図」) 江戸時代後期



御返書箱



プチャーチン



本資料は、福岡藩御用絵師である緒方探香がプチャーチンへ返書を渡す場面を描いたものです。ロシア艦隊司令長官のプチャーチンは、1853(嘉永6)年、ロシア皇帝ニコライ一世からの国書を携えて日本を訪れます。その内容は、開国を求めるもので、さらには条約締結を迫るものでした。1ヶ月半前にアメリカのペリーが浦賀沖に現われたことに対して、プチャーチンは日本外交の正規ルートである長崎を訪れ、長崎奉行所において国書を手渡しました。その約半年後、筒

井政憲や川路聖謨らと面会を重ね、さらに1855(安政2)年には下田で日露和親条約、そして、1857(安政4)年には長崎で日露追加条約が締結されました。

本資料には、先に出されていた国書に対する幕府からの返書を中央に描き、これを授受しようとする場面が描かれています。また、赤い襷をにかけている人物がプチャーチンで、多くの日本側の役人が立ち会うなかで、長崎奉行所西役所の書院で返書が手交されたのでした。

## 学芸員の眼

大学博物館では学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」の採択を受けて、前年は韓国の大学博物館、そして、今年度は中国の大学博物館を調査しました。中国の大学博物館は共通して、校史展示室が充実しており、在校生や卒業生に愛校心を芽生えさせる効果的な展示がおこなわれています。また、中国の歴史では欠かすことができない本草学について、特に薬学系の大学博物館では、詳しく解説されていました。

大学博物館の建物は大規模なものが多く、展示資料

## — 中国の大学博物館 —

も充実していました。また、芸術系の大学では影絵に特化した博物館があり、ハンズ・オンを用いた多様な取り組みがおこなわれています。担当教員とのヒアリングでは、学芸員養成システムについての意見交換も積極的におこなわれ、とても有意義な調査となりました。日本ばかりでなく、中国、韓国の大学博物館からも得るものは多く、今後その成果を大学博物館の活動に反映させていきたいと思えます。

博物館学芸員 安高啓明



上海交通大学董浩航運博物館



蘇州大学博物館入口モニター



復旦大学博物館

## 博物館通信

2013年7月から12月までに行なった博物館活動や出来事のなかからいくつかを紹介します。

7月6日(土)、第13回特別展「平戸松浦家の名宝と禁教政策」関連公開講演会を開催しました。

8月16日(金)~23日(金)、大学博物館学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」で中国における大学博物館の調査を行うため、12館の博物館を訪れました。(上海交通大学銭学森図書館、上海交通大学董浩航運博物館、上海中醫藥大学博物館、上海中醫藥大学百草園、蘇州大学王健法学院史展、蘇州大学博物館、中国美術学院皮影数字美術館、中国薬科大学校史陳列館、中国薬科大学薬学博物館、復旦大学校史館、復旦大学博物館、浙江省中醫大学博物館)

8月26日(月)~9月7日(土)、大学博物館で博物館実習をおこないました。

9月7日(土)せいなんこどもワークショップ2013「カリグラフィーをかこう」を実施しました。

9月10日(火)~9月28日(土)、博物館実習成果展「ウミガメ探検隊-海の玉手箱展」を開催しました。

11月9日(土)、せいなんこどもワークショップ2013「大学博物館まるごとツアー」を実施しました。



公開講演会の様子



中国での博物館調査



博物館実習の様子



9月ワークショップの様子



11月ワークショップ集合写真

## スタッフの声

早いもので、もう年末を迎えようとしています。段々寒くなってきた天気の中、来館者の方々の暖かさを心より感じております。皆様の期待に応えられるように、来年も引き続き一同で頑張ります。

今回、國學院大學と共催する秋季特別展示「日本信仰の源流とキリスト教-受容と展開、そして教育-」が11月から始まりました。日本宗教の特質やキリスト教の東方伝来及び近代の宗教政策についての資料や所蔵物を展示しております。日本におけるキリスト教展開の歴史に関心を持っていらっしゃる方はぜひお立ち寄りください。



臨時職員・本学大学院国際文化研究科  
博士前期課程 謝婧

## 〔大学周辺情報⑭〕 さらなる発展にむけて 新本館建設

東キャンパスの大学院棟の裏で、現在新本館の建設が進められています。「守れ品質貫け安全固い決意で新本館」のローガンの下、徐々に完成に近づいていく新本館を見ていると、なんだかワクワクしてきます。新本館の完成は2014年初春の予定です。また、現在本館がある場所には、新たに図書館が建設されることが決まっています。創立100周年に向けて、西南学院は新たな姿に生まれ変わっています。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科  
博士前期課程 吉松由希

